

沼津・内浦重須自治会

高台移転に向け勉強会

津波への予防的措置として、集団での高台移転を目指している沼津市の内浦重須自治会（原敏会長）は30日夜、同市の重須公民館で第2回勉強会を開いた。北海道大学院の森傑教授のワークショップに住民53人が参加し、地域の歴史や文化、生活について考えた。



地域の歴史や文化について語り合う住民と森教授(中央)

沼津市の重須公民館

歴史や文化考える

自治会内の6町内会ごとに分かれて、子どもたちの思い出▽親や近所の大人から教わったこと▽今の子どもに伝えたいこと―についてそれぞれ意見を出し合った。

参加者は「海やミカン畑でたくさん遊んだ」「津波が来たら山にすく逃げろと言われた」など、故郷をさまざまな角度から見つめ直した。

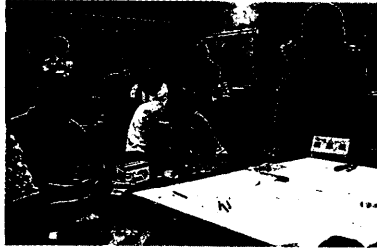
こうしたワークショップは、住民の合意に基づき高台移転計画を進めている宮城県気仙

沼市の小泉地区でも繰り返して行われたという。森教授は「幅広い世代が集まって話し、情報を共有することが大事。日常の中でも意識してほしい」と話した。

高台移転へ勉強会

沼津内浦
重須地区
生活や歴史意見交換

予想される津波被害を避けるために集落全体での高台移転を目指している沼津市の内浦重須地区で三十日、移転計画について学ぶ第二回勉強会が開かれ、同地区の生活や歴史についてワークショップ形式で話し合った。



地区の昔の思い出などを話し合う住民たちと森教授（右端）

沼津市内浦重須で

二を捕まえて遊んだ」の子どもに伝えたい。「海の水が引いたら海ととして」「自然の中で行くな、と大人から元気よく遊んでほしい」などと書き出して教わった」といった子ども時代の記憶や、今

勉強会は同地区と沼津市の共催。次回は九月中旬を予定している。

（谷岡聖史）

講師は、東日本大震災で被災した宮城県気仙沼市などで移転計画に関わっている森傑・北海道大教授（建築計画）。住民五十二人は近所ごとに十人前後の六グループに分かれて意見を交換した。「カ